



ベリ社 (2011年8月執筆) 特別付録



1:ご自宅。正方形を45度回転させたようなドアや窓のフレームなど、とても個性的なお宅。木彫りのフクロウがお出迎え。



2:建築家がベリさんの製品を見て得たアイデアにベリさんの了解を求めて造られたお家だそうです。



3:右側がベルント・リーベル氏、左側はインタビューの谷本さん。



4:リビングダイニングとショールームを兼ねたお部屋



5:つづき



6:オリジナルのディスプレイ



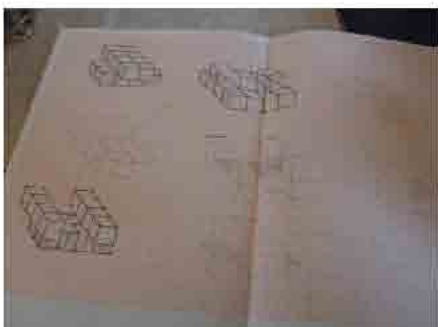
7:リビングダイニングに居ると、窓の外に大きなフクロウの頭と耳の一部が見えます。なんだかトトロが立っているように見えて仕方ありませんでした



8:学生時代の作品制作資料。



9:つづき



10:つづき



11:それぞれのマス目には色の表記がなされています。



12:ベリさんのおもちゃ第一号



13:リビングダイニングのある一階から半地下に降りる階段から、下の作業室を写したもの。机の上に乗っているのは組み立て中のアイテムパーツ。



14:精密さが求められる組み立てはベリさんご自身の手で一つ一つ。



15:本文にもありますが、各パーツを接着しているだけではどうしてもいつか接着部分がはがれてしまいます。これを避けるためにダボを入れます。



16:塗料の配合をする作業室の様様。



17:原料



18:作業場



19:調合



20:パーツの切断



21:離れの工房。



22:彩色ドラム。



23:中に材料を入れ、ドラムを回しながら色づけしていきます。



24:綺麗に彩色されたパーツたち。



25:マグネットを貼るのは、ベリさんのお母さんの役だそうです。



26:お母さんのお住まいに寄ると、なんとベリデザインの珠のれん!



27: 離れの工場の作業場。



28: 様々な工具が並んでいます。



29: つづき。



30: 精密さが求められる作業はベリさんご自身の手で一つ一つ。



31: 離れの工房内のパッキングエリア。



32: 箱詰めを待つ商品。



33: 色彩豊かなパーツ達。



34: 箱詰めの様子。



35: 様々なパッケージ用ラベル。



36: 塗装用ドラムの下に敷いていたカートン。偶然生まれたアートのように思えたので壁に釘付けしたそうです。



37: ソーラー設備。セントラルヒーティングの給湯に必要なエネルギーをこれで補っています。



38: 屋根にわざと草を生やしています。この地方ではこんな屋根がよく見られるそうです。



39: お庭に建てられた納屋。つまり倉庫です。



40: ティー、年齢はベリさんと同じくらい。





41:愛犬カシャー



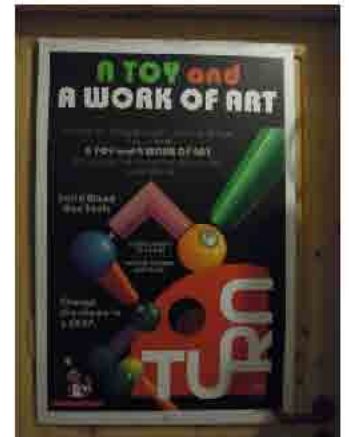
42:半地下と外に作られた鳥小屋。窓に通された竿を伝って自由に行き来できるように作られています。餌のピーナッツなどを手で与えます。ペリさんがピーナッツの殻をくわいてやるので、『甘やかしすぎ。奴らはそんなもの嘴で上手にむけるはず。』と思いましたが、ピーナッツが《ビオ》じゃないので残留農薬などが気になるのだそうです。



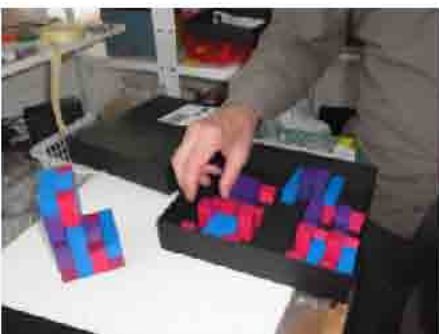
43:偶然『オウム類は左利き、左足を使って食べる。』と、訪問日の新聞に書かれていましたが、この証拠写真が記事の誤りを暴いています。



44:ペリさんのアトリエハウスでは、暮らしの中にしっくりとなじんだペリアートがここかしこで目を楽ませてくれました。



45:90年代に北米でペリさんからライセンスを買って製作を始めたパッパ・ジェット社のポスター



46:最新作(日本未発売)。一番古いものと一番新しいものと同じアイデアが一貫していることにペリさんが改めて気づきました。いずれも基本は立方体。そして立方体2つ分の直方体をいろいろに組み合わせて作られた数種類の積木を組んで、大きな立方体などを作ることができます。